

CASIO CORPORATE REPORT 2008

>>>資料

參考資料集

2008年6月

CASIO

- ISO 9001 認証取得一覧…………… ページ②
- 資材調達方針…………… ページ③
- お取引先さまへのお願い …… ページ④
- 人材開発体系における各制度の説明 …… ページ⑤
- 2007 年度 その他の主な社会貢献活動 …… ページ⑥
- ISO 14001 認証取得一覧 …… ページ⑦
- 2008 年度 カシオ環境行動目標 …… ページ⑧⑨
- 2007 年度 カシオ環境行動目標実績報告（詳細版）…………… ページ⑩
- 事業活動のマテリアルバランス（エレクトロニクス機器事業）…………… ページ⑪
- 事業活動のマテリアルバランス（デバイス事業）…………… ページ⑫
- CO₂ 排出量の推移 …… ページ⑬⑭
- 廃棄物の削減…………… ページ⑮
- 水資源利用量の削減…………… ページ⑯
- PRTR の削減…………… ページ⑰
- VOC の削減／NO_x・SO_x・ばいじんの削減 …… ページ⑱
- グリーン購入 …… ページ⑲
- グリーン商品づくり …… ページ⑳
- コンプライアンス設計 …… ページ㉑
- 電子辞書包装のユニバーサル設計評価項目 …… ページ㉒
- 環境コミュニケーション …… ページ㉓

ISO 9001 認証取得一覧

区分	認証登録拠点	初版登録日
国内開発・生産・サービス拠点	カシオ計算機 開発本部 システム統轄部	1999年 6月25日
	甲府カシオ（一宮事業所を含む）	1994年 8月1日
	カシオ電子工業	1994年 8月5日
	山形カシオ	1994年 12月16日
	高知カシオ	1996年 1月12日
	カシオマイクロニクス	1996年 3月29日
	カシオテクノ	2004年 5月21日
海外生産拠点	香港カシオ	2005年 11月21日
	香港カシオ番禺工場	1998年 7月29日
	カシオ電子科技中山	2006年 10月26日
	カシオタイ	2000年 10月24日
	カシオ電子シンセン 官渡工場	2002年 3月22日

>> P25-26「品質マネジメントシステム」

資材調達方針

カシオは、公正で公平な取引のもと、法令・社会規範の遵守、環境保全への配慮等の社会的責任をサプライチェーンを通じて遂行する為に、お取引先とのパートナーシップを強化しながら次のとおり取り組みます。

① 公正で公平な取引

カシオは、国内外を問わずお取引先（候補）に対し広く門戸を開き、定められた手順による調達業務と、機会均等に接する公正・公平な取引を行います。

② 法令・社会規範の遵守

カシオは、調達活動に際し、法令・社会規範（児童労働・強制労働・差別の禁止、人権の擁護、結社の自由、団結権及び団体交渉権をはじめとする世界各国の法律・基準・条約など）を遵守します。そのため、カシオは必要な資材を提供していただくお取引先にも法令・社会規範の遵守をお願いします。

③ 環境保全への配慮

カシオは、「カシオ環境憲章」「環境基本方針」に基づき、お取引先との連携による地球環境に充分配慮した調達を行い、地球環境の保全に貢献していきます。

④ お取引先とのパートナーシップの強化

カシオは、お取引先との、技術開発力の融合と補完、サプライチェーンでの連携、法令・社会規範の遵守と地球環境保全等、多岐に渡る相互理解に基づく信頼関係を強化し、互いの発展を追求します。

⑤ お取引先の選定と取引継続の方針

カシオは、取引の開始・継続にあたり、法令・社会規範の遵守、環境保全への配慮、適正な情報保護、他者の知的財産の尊重、健全で安定した会社経営、優れた技術開発力、あるべき価格と品質の確保、安定供給の確保、電子商取引への対応等を総合的に判断し、取引の開始・継続を行います。

⑥ あるべき価格と品質の確保

カシオは、世界中のお客様から厚い信頼が得られる最良の商品を安定供給する為、あるべき価格と品質の確保に努めます。

⑦ 私的な関係の禁止

カシオは、すべての従業員にお取引先と個人的な利害関係を持つことを禁じております。

お取引先さまへのお願い

カシオは、グローバルに事業展開する上で多くのお取引先に資材の提供をしていただいています。従いまして、カシオはお取引先さまを含めたサプライチェーンを通じて、社会的責任を遂行して行くことが大切であると考えます。そのためカシオは、全てのお取引先さまに、次の事項の実施をお願いするものです。

① 法令・社会規範の遵守

カシオは、世界中のお客様から厚い信頼が得られる最良の商品をご提供するだけでなく、世界各国の法令や社会規範（児童労働・強制労働・差別の禁止、人権の擁護、結社の自由、団結権及び団体交渉権をはじめとする世界各国の法律・基準・条約など）を遵守し、お客様の信頼に応えます。お取引先さまにつきましても、事業活動を行っている国・地域での法令や社会規範の遵守をお願いします。

② 環境保全への配慮

カシオは、地球環境に配慮した商品をご提供することで、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。このためには、カシオとお取引先さまで環境活動を協同推進させていただくことが不可欠であり、商品構成する原材料や部品は、供給していただくお取引先さまの調達活動・生産工程等の源流段階での管理が必要となります。お取引先さまにおかれましても、以下のような環境活動の実施をお願いします。

- ・ ISO 14001 などに準拠した環境マネジメントシステムの構築と運用
- ・ 含有化学物質の管理と情報開示、カシオが指定する禁止物質の非含有の保証
- ・ 地球温暖化防止、省資源、リサイクル性に配慮した部品の供給

③ 適正な情報保護

お取引先さまは、取引を通して知り得たカシオのノウハウや秘密情報、カシオがお預かりしている他者のノウハウや秘密情報については、決して漏洩しないよう徹底した管理をお願いします。

④ 他者の知的財産の尊重

カシオは、自身の知的財産を積極的に保護するとともに、他者の保有する知的財産を尊重し、不正な使用や侵害行為が起らないよう管理しております。お取引先さまにおかれましてもカシオとの取引において、他者の知的財産の不正使用や侵害行為をしないよう徹底した管理をお願いします。

⑤ 健全で安定した会社経営

取引を継続的に行うためには、お取引先さまの経営基盤が健全で安定していることが重要です。この確認をさせていただくためカシオより、経営方針・経営状況の開示要請があった時には、適切なご対応をお願いします。また、経営に影響すると予測される事態が発生した場合、或いは事態の発生が想定される場合は、速やかなご報告をお願いします。

⑥ 優れた技術開発力

カシオは、世界中のお客様に対し、常に厚い信頼が得られる最良の商品をご提供します。このため、カシオはお取引先さまに対し、カシオが要求する新技術、新部品、新材料を具現化できる技術力とともに、カシオの技術開発力と融合し、新しい価値を創造する独自の技術の提案をお願いします。

⑦ あるべき価格と品質の確保

お取引先さまから供給いただく資材の価格と品質は、カシオ商品の市場競争力に大きな影響を持ちます。このためカシオは、お取引先さまに対し、あるべき価格と品質の実現の為、たゆまぬ価格低減活動と品質維持活動をお願いします。

⑧ 安定供給の確保

カシオは、お客様のご要望に柔軟に対応できる商品をご提供します。このため、カシオはお取引先さまに対し、確実かつ、柔軟な資材の供給体制の確立と、たゆまぬ変革をお願いします。

⑨ 電子商取引への対応

カシオとお取引先さまが効率よく、効果的な取引をする為には、取引に関わる情報を迅速かつ高精度に交換することがきわめて重要です。このため、カシオは、お取引の開始及び継続にあたっては、お取引先さまの電子商取引の対応力を確認させていただきます。また、お取引先さまにおかれましては、コンピューターネットワーク上の脅威に対する防御策を十分に講じ、被害防止に努められるようお願いいたします。

⑩ 私的な関係の禁止

調達活動は、カシオとお取引先さまとの会社間の商取引であることから、カシオは従業員がお取引先さまと個人的な利害関係を持つことを禁じています。不適切な個人的利益供与はお断りいたしますのでご理解をお願いします。また、カシオの従業員が不適切な対応や要求を行うおそれがある場合は必ずご連絡をお願いします。

具体的には、次のようなことがこれにあたります。

- ・ 業務上の取引に伴う金品の授受や接待
- ・ 特定会社への便宜供与
- ・ インサイダー取引

>> P30「お取引先さまへのお願い(抜粋)」

人材開発体系における各制度の説明

OJT

① 現職プロ化施策

● 新人指導主任

新人指導主任は、新卒入社者の職場での指導役をあらかじめ任命し、育成計画の策定と実行管理を行うことで、新卒入社者の早期計画育成を促進する制度です。

● 仕事ぶり評価

仕事ぶり評価は、職種別にプロの仕事ぶりを20項目に渡って明示し、半期ごとに自分の実際の行動に照らし、自己評価・上司評価を行うことで、その向上・達成を目指す行動（プロセス）評価です。

● OJT-MAP

OJTマップは、初任配属を中心とした若年層社員に対し、職種別に身に付けるべきスキル等を明確化し、その職種の担当者として成長（育成）していく指標となるものです。

● 育成考課制度

育成考課制度は、一般社員の計画的な早期育成を目指すもので、上司がスキル・キャリアの棚卸しと3年後の育成目標を明確化した上で、本人に対して今後経験すべきキャリアや身に付けるべきスキルを明確化し、意識付けと育成を行うものです。

② 適性配置制度

● キャリアロードマップ

キャリアロードマップは、系統別に業界で通用する「プロ」となるために経験すべき道すじを明示したもので、本人のキャリア志向と上司の配置立案の際に、重要な参考とするものです。

● キャリアチャレンジ制度

キャリアチャレンジ制度は、社員が定期的に自己のキャリア・スキル・挑戦意思を会社に登録し、上司の育成方針とともに、今後の配置計画における重要な参考とするものです。

● キャリアチャレンジ Advanced

キャリアチャレンジ Advanced は、現職にやや滞留している社員が、自己の成長と会社への更なる貢献を目的に、新しい能力が要求される環境／職務への挑戦を希望する場合、希望部門のニーズに適合すれば優先配置する制度です。

● 人材公募制度

人材公募制度は、会社のビジネスニーズと社員のキャリア志向の両立を図り、会社が公募した職務への応募者を選考の上、適材を優先的に配置する制度です。

Off-JT

① 選抜型研修

● 部門長キャリア・アップ研修／所属長キャリア・アップ研修／主事補キャリア・アップ研修／主事補受験者研修

選抜型の各研修は、それぞれの階層で選抜された優秀者が近い将来、より上位の役割を果たすことが出来る様、スキル向上を図る研修プログラムです。

② 階層別研修

● マネジャー多面評価制度

マネジャー多面評価制度は、現任の部門長及び所属長に対して、部下同僚からのいわゆる360度評価を行い、そのフィードバックを研修形式にて行う制度です。

● 新任マネジャー研修

新任マネジャー研修は、新しく任用された所属長に対して、カシオイズムを再認識した上で、マネジメントの基礎とともに、人と組織の活性化原理を体得させ、組織活力を最大限に発揮させることを意図した研修です。

● キャリア開発研修／フォロー研修／新入社員研修

若年層社員向けの各階層別研修は、カシオ社員としての基礎を学ぶ場であるとともに、自己のキャリア方向性を考える機会として、入社時・1年後・3年後にそれぞれ実施するものです。

③ スキル選択型研修

スキル選択型研修は、一般社員全般を対象として、業務遂行に必要な多様なスキルを効果的かつ効率的に体得できることを目的として制定したもので、様々な研修コースから必要なものを選択して受講できる研修体系です。

④ その他の Off-JT

● 技術系販売派遣制度

技術系販売派遣制度は、中堅の技術開発者に対して、顧客志向を再認識させることを目的とし、一定期間、大手量販店における店頭販売などを経験させる制度です。

● 先端技術セミナー

先端技術セミナーは、主に技術開発者に対して、革新的な製造開発・事業創造を成し遂げた他社イノベーターの事例講演を通じ、先端技術動向やトレンドの理解と、開発マインドの高揚・挑戦意欲の醸成を図ることを目的とした社内セミナーです。

表彰制度

① テクノパワー

テクノパワーは、技術開発者の活性化／技術の共有化と蓄積を目的として、技術の優位性／特許性／完成度等、社内先端技術の成果を表彰する場として毎年開催している技術展示会です。

② 社長賞

社長賞は、会社の事業拡大・発展に貢献した社員を表彰するもので、事業の拡大・発展に向けた創意工夫や改善活動によって、全社目標達成に大きな貢献があり、かつ新規性・発展性のある仕組み・手法が開発されているものが表彰されます。

③ 特許表彰制度

特許表彰制度は、優秀特許・発明・ライセンスの各分野で、技術開発者が申請した特許の質・量・収入を主な観点として審査の上、褒賞金を支給するものです。

2007年度 その他の主な社会貢献活動、寄付活動一覧

社会貢献活動

分類	件名	内容・実績	実施主体
教育	大学授業の一部としての学生向けトレーニング	大学授業の一環として、学生 19 名に対し専攻に関連する業務を職場で 3 ヶ月間実務研修。	カシオタイ
	地元学生の民間企業体験研修受け入れ	地元高校 / 大学から海外企業への就労体験希望者に対し、適宜、受け入れ実施。	カシオインドネシア
	環境教育の実施	地元中学生を対象に地球環境や自社の環境活動について講習を実施。	山形カシオ
	大学での講義	プラスチック成形の先端技術について、山形大学にて講義。	山形カシオ
	〃	広州の中山大学 (EMBA コース) にて、「経営品質とマーケティング」について講演。	カシオ広州商貿
	〃	長岡技術科学大学にて集中講義。エレクトロニクス産業の発展や商品開発の実際的な取り組み等々の講義を継続して実施 (3 年連続)。	カシオ計算機
	SIFE JAPAN 主催 国内大会説明会に於ける CSR 講演	CSR テーマの国内発表会に先立つ説明会において、大学生等に向けて CSR について講演。	カシオ計算機
	カシオワールドオープンでの社会貢献活動	ツアープレイヤーが子供たちを対象にゴルフスイングを教えるジュニアレッスンを開催。小学校と協力し、普段見ることができないトーナメントの舞台裏を説明を聞きながら見学できる課外授業を実施。	カシオ計算機
	企業訪問の受け入れ	総合的な学習の一環として、中高生を中心として、195 名が訪問。累計で 1,000 名を突破 (カシオ計算機) ほか。	カシオグループ
環境	早朝の事務所近辺の清掃	事業所周辺のボランティア清掃を呼びかけ、全国 25 拠点にて、始業前に実施。	カシオテクノ
	クリーンアップ・デイの実施	年 2 回、会社周辺および最寄り駅前・通勤路会社周辺の清掃活動を実施。各回、100 名程度参加。	甲府カシオ カシオマイクロニクス
	羽村技術センター周辺清掃	労働組合 (羽村エリア) と共催。四半期に 1 回、環境活動ボランティアとして周辺の清掃実施。	カシオ計算機
	国分川芝焼きへの参加	2 月に実施される国分川一斉清掃 (芝焼き) に従業員を派遣し、地域活動に協力。35 名が参加。	高知カシオ
	「エコライフ DAY2007」への参加	従業員およびその家族 126 名が参加し、家庭での室温設定 (20℃)、重ね着、電灯や電気製品の省エネに取り組む。	カシオ電子工業
その他	献血への協力	カシオ計算機で 491 名、甲府カシオで 135 名、高知カシオで 39 名が協力ほか。	カシオグループ
	福祉作業所への商品解体・開梱作業の業務委託	商品解体・開梱作業の業務を委託し、作業者の自立支援に協力。	カシオビジネスサービス
	交通安全運動協力	春・秋の全国交通安全運動期間における街頭活動の協力。	カシオ情報機器
	エコボーナス	地域のボランティア活動に参加した従業員に、「エコボーナス」として図書券を配付して、従業員のボランティア活動への参加を支援・推奨。	甲府カシオ

寄付活動

分類	件名	寄付先	実施主体
教育	国際大学への協賛	国際大学	カシオ計算機
	COSTCO 社奨学基金への寄付	Costoco Scholarship Fund	カシオアメリカ
	Office Max ACTS を通じての小学生の教育支援	Office Max ACTS	カシオアメリカ
環境	日本経団連自然保護基金への寄付	日本経団連自然保護基金	カシオ計算機
	国際芸術協力機構への支援	国際芸術協力機構	カシオ計算機
	Think the Earth プロジェクトへの協賛	Think the Earth プロジェクト	カシオ計算機
	WWF ジャパンへの支援	WWF ジャパン	カシオ計算機
	中国・深圳市緑色化推進活動協賛	深圳市緑色基金会	カシオ電子シンセン
産業廃棄物処理事業振興財団への寄付	産業廃棄物処理事業振興財団	カシオ計算機	
地域社会活動	チューリップ球根・大賀ハス里親協賛	東京都羽村市	カシオ計算機
文化・芸術	NHK 交響楽団への協賛	NHK 交響楽団	カシオ計算機
	新星東京フィルハーモニー交響楽団への協賛	新星東京フィルハーモニー交響楽団	カシオ計算機
	パリ日本文化会館への協賛	パリ日本文化会館・日本友の会	カシオ計算機
	「2007 日中文化・スポーツ交流年」協賛	2007 「日中文化・スポーツ交流年」実行委員会	カシオ計算機
	平成中村座 NY 公演協賛	平成中村座、フジ・サンケイ・インターナショナル	カシオアメリカ
災害救援	新潟中越沖地震義援金寄付	日本赤十字社	カシオ計算機
その他	世界少年野球大会協賛	世界少年野球推進財団	カシオ計算機
	2007 年ユニバーサル技能五輪国際大会協賛	2007 年ユニバーサル技能五輪国際大会日本組織委員会	カシオ計算機
	ASDA's "Tickled Pink Campaign" 協賛	1) Breast Cancer Care 2) Breast Cancer Campaign	カシオ UK
	慈善事業の寄付	番禺区慈善会	カシオ香港
	身体障害者の方々に対する就職サポート活動支援金の寄付	A FUND FOR REHABILITATION OF DISABLE PERSONS	カシオタイ

ISO 14001 認証取得一覧

	認証登録拠点	取得日
1	山形カシオ (株)	1997 年 11 月
2	甲府カシオ (株)	1998 年 1 月
3	高知カシオ (株)	1998 年 3 月
4	カシオ電子工業 (株)	1999 年 9 月
5	カシオビジネスサービス (株)	2000 年 1 月
6	カシオマイクロニクス (株)	2000 年 3 月
7	羽村技術センター	2000 年 10 月
8	八王子技術センター	2000 年 10 月
9	本社 (2 営業拠点含)	2000 年 12 月
10	カシオソフト (株)	2001 年 12 月
11	カシオテクノ (株)	2002 年 5 月
12	(株) CH モバイル	2004 年 6 月
13	マス (株) ※	2006 年 3 月
14	韓国カシオ	1998 年 4 月
15	香港カシオ (番禺)	1999 年 9 月
16	香港カシオ	1999 年 12 月
17	カシオ電子 (珠海) 有限公司	2000 年 9 月
18	カシオタイ	2001 年 9 月
19	台湾カシオ	2001 年 12 月
20	カシオ電子 (シンセン) 有限公司	2002 年 2 月
21	カシオ電子 (中山) 有限公司	2002 年 4 月

※ KES 取得

製品に関わる行動目標

1. 環境適合型製品の開発目標

2008年度 グリーン商品の売上比率 80%

工場・事業所に関わる行動目標

1. 省エネルギー目標（電力、燃料等）

国内生産拠点 実質生産高二酸化炭素（CO₂）原単位を 1990年度に対し、
2008～2012年度（5年間）平均値で 35%削減

※実質生産高：電気電子4団体の方針に基づき、日銀国内企業物価指数（電気機器）で名目生産高を補正したものとす

国内オフィス拠点 二酸化炭素（CO₂）排出総量を 1990年度に対し、
2008～2012年度（5年間）の平均値で9%削減

海外生産拠点 生産高二酸化炭素（CO₂）原単位を 2004年度に対し、
2012年度までに30%削減

海外オフィス拠点 二酸化炭素（CO₂）排出総量を 2004年度に対し、
2012年度までに3%削減

2.CO₂以外の温室効果ガス削減目標

2010年までにCO₂以外の温室効果ガス総排出量（CO₂換算）を2000年排出量以下とする

※CO₂以外の温室効果ガス：JEITAの自主行動指針に基づくPFCs、SF₆、NF₃。カシオは既にSF₆を除き全廃済み。

3. 省資源目標（水、紙）

国内生産拠点 水使用量の実質生産高原単位を 2000年度に対し、
2008年度までに10%削減

海外生産拠点 水使用量の生産高原単位を 2004年度に対し、
2012年度までに15%削減

国内拠点 紙使用量の実質生産高原単位を 2003年度に対し、
2008年度までに30%削減

4. 廃棄物削減目標

国内拠点 廃棄物発生量の実質生産高原単位を 2000 年度に対し、
2008 年度までに 40%削減

海外生産拠点 廃棄物発生量の生産高原単位を 2004 年度に対し、
2012 年度までに 30%削減

5.VOC（揮発性有機化合物）削減目標

国内生産拠点 VOC の大気排出量を 2000 年度に対し、2010 年度までに 30%削減

※電機電子 4 団体にて VOC 20 物質を指定。カシオは 8 物質を使用中。

6. 有害物質の使用廃止目標

保管中の PCB 含有機器を 日本環境安全事業（株）のエリア別事業開始に合わせ無害化処理を行う
・甲府カシオ：2008 年度まで

※羽村技術センターで保管中の低濃度コンデンサについては、受入可能となるまで保管を行う。

7.PRTR 法対象化学物質の排出量削減目標

国内生産拠点 対象化学物質の排出量実質生産高原単位を、2003 年度に対し、
2012 年度までに 40%削減

8. グリーン調達の実施目標

2007 年度 グリーン部品回答率（調査対象部品に対する回収率）
国内／海外拠点 100%

9. グリーン購入の実施目標

2009 年度 国内拠点の文具、事務用品、OA 機器類のグリーン購入比率 70%
(件数ベース) ※ CATS e-P システム導入拠点を対象

10. 物流の温暖化対策目標

国内物流による CO₂ 発生量を 国内売上高原単位で 2009 年度に 2000 年度比
40%削減（削減対象範囲は製品・販売物流工程の削減値）

海外物流による CO₂ 発生量を 海外売上高原単位当たり 2009 年度に 2004 年度比 5%削減
(削減対象範囲は製品・販売物流工程の削減値)

2007年度 カシオ環境行動目標実績報告(詳細版)

下段() 上段: 対基準年度比
2006年度 下段: (対前年度比)

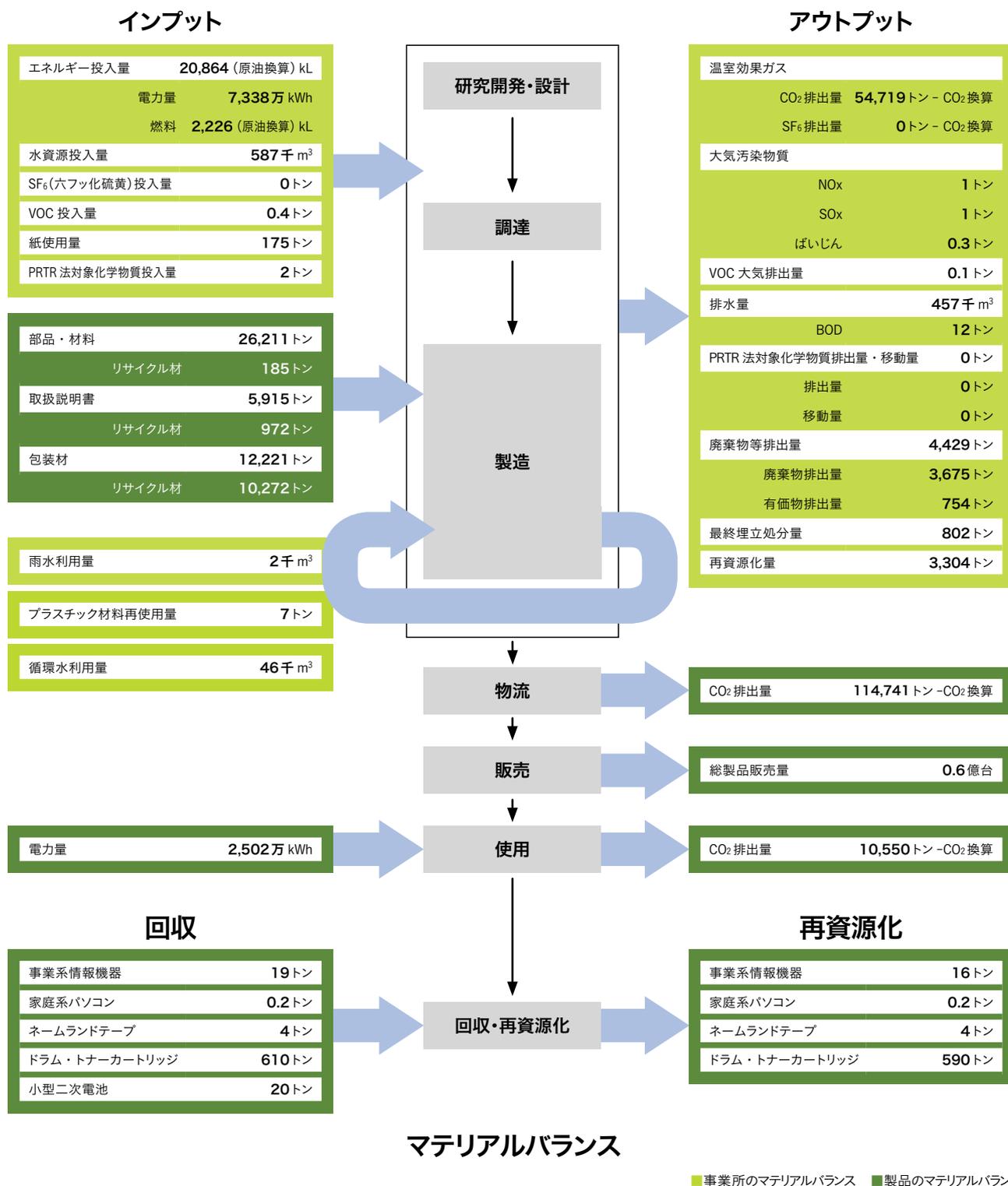
	活動テーマ	目標	基準年 原単位値	目標年 目標原単位値	2007年度 実績原単位値	2007年度末 までの実績	達成度 自己評価
製品にかかわる行動目標							
1: 環境適合型製品	グリーン商品売上高比率の向上	2008年度までに売上高比率を80%にする	—	80%	77% (70.5%)	77% 達成	☆☆
	包装材の総使用量の削減	売上高原単位で2007年度に2000年比30%削減	2.76 (トン/億円)	1.93 (トン/億円)	2.10 (トン/億円) (2.11)	24.2% 削減 (0.5% 削減)	☆☆

工場・事業所にかかわる行動目標

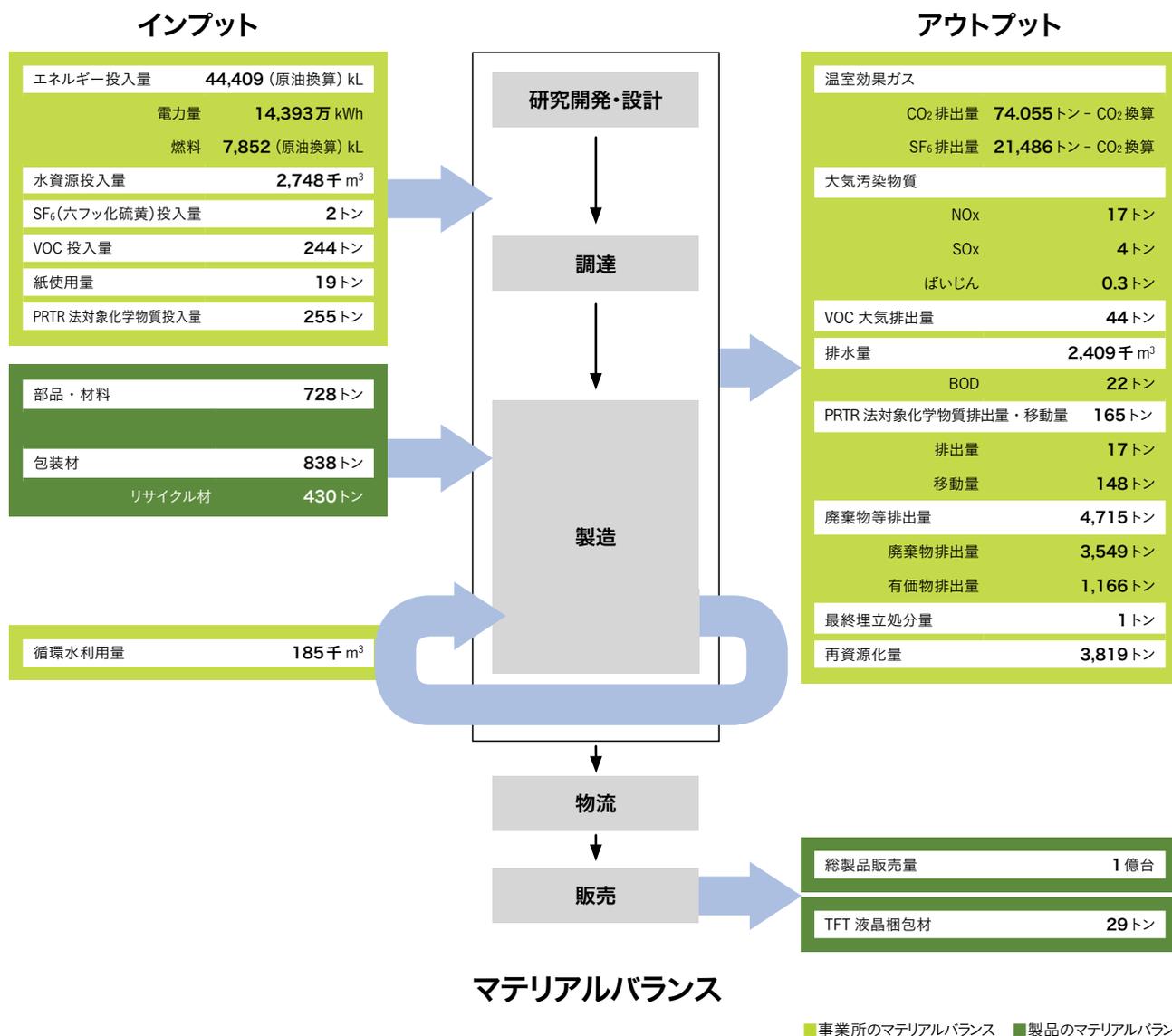
1: 省エネルギー (電力・燃料等)	CO ₂ 排出量の削減 (国内拠点)	実質生産高原単位で2010年度に2003年度比20%削減	0.22 (トン-CO ₂ / 百万円)	0.18 (トン-CO ₂ / 百万円)	0.23 (トン-CO ₂ / 百万円) (0.23)	1.9% 増加 (横ばい)	●
	CO ₂ 排出量の削減 (海外拠点)	生産高原単位で2010年度に2004年度比10%削減	0.34 (トン-CO ₂ / 百万円)	0.31 (トン-CO ₂ / 百万円)	0.32 (トン-CO ₂ / 百万円) (0.25)	4.6% 削減 (29.6% 増加)	☆
2: 温室効果ガス削減	CO ₂ 以外の温室効果ガス総排出量 (CO ₂ 換算) を2000年排出量以下にする	2010年の総排出量を2000年実績7,278トン-CO ₂ 以下	7,278 (トン-CO ₂)	7,278 (トン-CO ₂) 以下	19,682 (トン-CO ₂) (20,446)	12,404トン-CO ₂ 増加(764トン-CO ₂ 削減)	●
3: 省資源 (水・紙)	水使用量の削減 (国内生産拠点)	実質生産高原単位で2008年度に2000年度比10%削減	0.0077 (千 m ³ / 百万円)	0.0069 (千 m ³ / 百万円)	0.0072 (千 m ³ / 百万円) (0.0074)	5.5% 削減 (2.7% 削減)	☆☆
	水使用量の削減 (海外生産拠点)	生産高原単位で2008年度に2004年度比5%削減	0.0039 (千 m ³ / 百万円)	0.0037 (千 m ³ / 百万円)	0.0031 (千 m ³ / 百万円) (0.0034)	25.9% 削減 (8.8% 削減)	☆☆☆
	紙使用量の削減 (国内拠点)	実質生産高原単位で2008年度に2003年度比30%削減	0.00025 (トン/百万円)	0.00018 (トン/百万円)	0.00028 (トン/百万円) (0.00030)	8.7% 増加 (6.7% 削減)	●
4: 廃棄物排出量	廃棄物発生量の削減 (国内拠点)	実質生産高原単位で2008年度に2000年度比40%削減	0.024 (トン/百万円)	0.014 (トン/百万円)	0.016 (トン/百万円) (0.017)	32.0% 削減 (5.9% 削減)	☆☆
	廃棄物発生量の削減 (海外拠点)	生産高原単位で2008年度に2004年度比10%削減	0.012 (トン/百万円)	0.011 (トン/百万円)	0.011 (トン/百万円) (0.009)	8.6% 減少 (22.2% 増加)	☆☆
5: VOC (揮発性有機化合物) の削減	VOC大気排出量の削減 (国内生産拠点)	2010年度に2000年度比30%削減	47トン	33トン	43トン (52トン)	7.3% 削減 (15.9% 削減)	☆☆
6: 有害物質の使用廃止	保管中のPCB含有機器を日本環境安全事業(株)のエリア別事業開始にあわせ無害化処理を行う(羽村および八王子技術センター/甲府カシオ)	・2007年度に羽村および八王子技術センターのエリア別事業開始にあわせ無害化処理 ・2008年度に甲府カシオ保管分無害化処理	—	—	—	羽村および八王子技術センターのPCB含有機器は無害化処理のため事業者引渡し完了(ただし、JESCOの処理方針により低濃度のもののみ引渡し待ち)	☆☆
7: PRTR 法対象化学物質の排出量削減	対象化学物質の排出量削減 (国内生産拠点)	実質生産高原単位で2010年度に2003年度比10%削減	0.00011 (トン/百万円)	0.00010 (トン/百万円)	0.00004 (トン/百万円) (0.00005)	59.8% 減少 (20% 削減)	☆☆☆
8: グリーン調達	グリーン部品回答率 (調査対象部品に対する回答率)を100%とする(国内・海外拠点)	2006年度国内回答率100% 2006年度海外回答率100%	—	100%	100%	国内外ともに回答率100%達成	☆☆☆
9: グリーン購入	文具・事務用品・OA機器類のグリーン購入比率60%とする(国内拠点)	2007年度購入比率(件数ベース)60%	—	60%	66.4% (63%)	66.4% 達成 (5.1% 増加)	☆☆☆☆
10: 物流温暖化対策	CO ₂ 発生量の削減 (国内物流)	国内売上高原単位で2007年度に2000年比50%削減	1.14 (トン/億円)	0.57 (トン/億円)	0.67 (トン/億円) (0.70)	41.6% 削減 (4.3% 削減)	☆☆
	CO ₂ 発生量の削減 (海外物流)	海外売上高原単位で2007年度に2004年比5%削減	16.61 (トン/億円)	15.78 (トン/億円)	18.07 (トン/億円) (17.71)	5.5% 増加 (2.0% 削減)	●

達成度評価基準 ①目標値を達成しかつ、新たに高い目標値が設定された ☆☆☆☆ ②目標値を達成した ☆☆☆
③目標値は未達成だが、前年度よりは着実に改善された ☆☆☆ ④目標値に向かって推進中であり、次年度以降に成果が見込まれる ☆
⑤基準値と同等かまたは悪化している ●

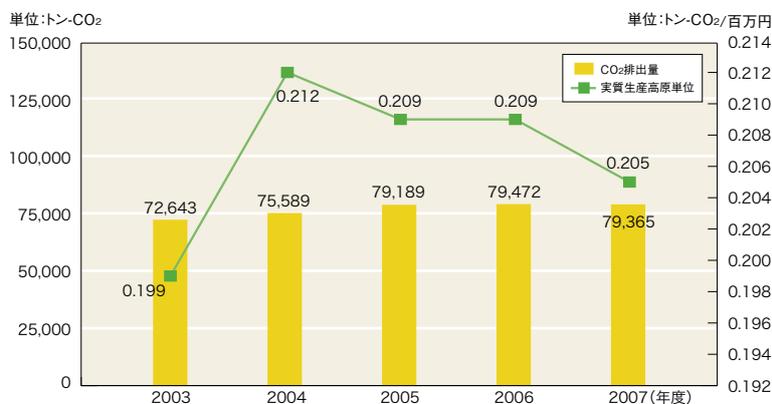
事業活動のマテリアルバランス(エレクトロニクス機器事業)



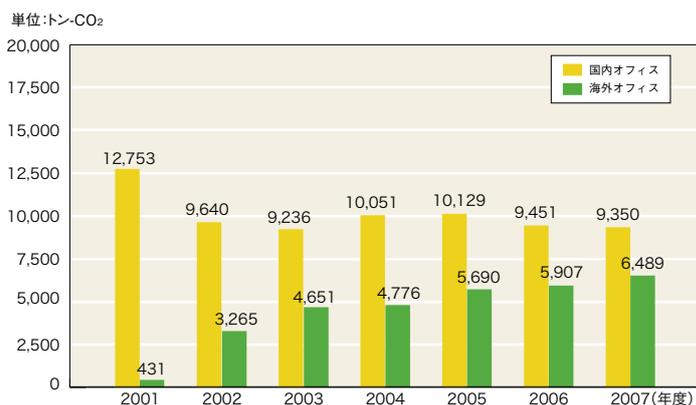
事業活動のマテリアルバランス(デバイス事業)



CO₂排出量と実質生産高原単位の推移(国内生産拠点)



国内・海外オフィスのCO₂排出量推移

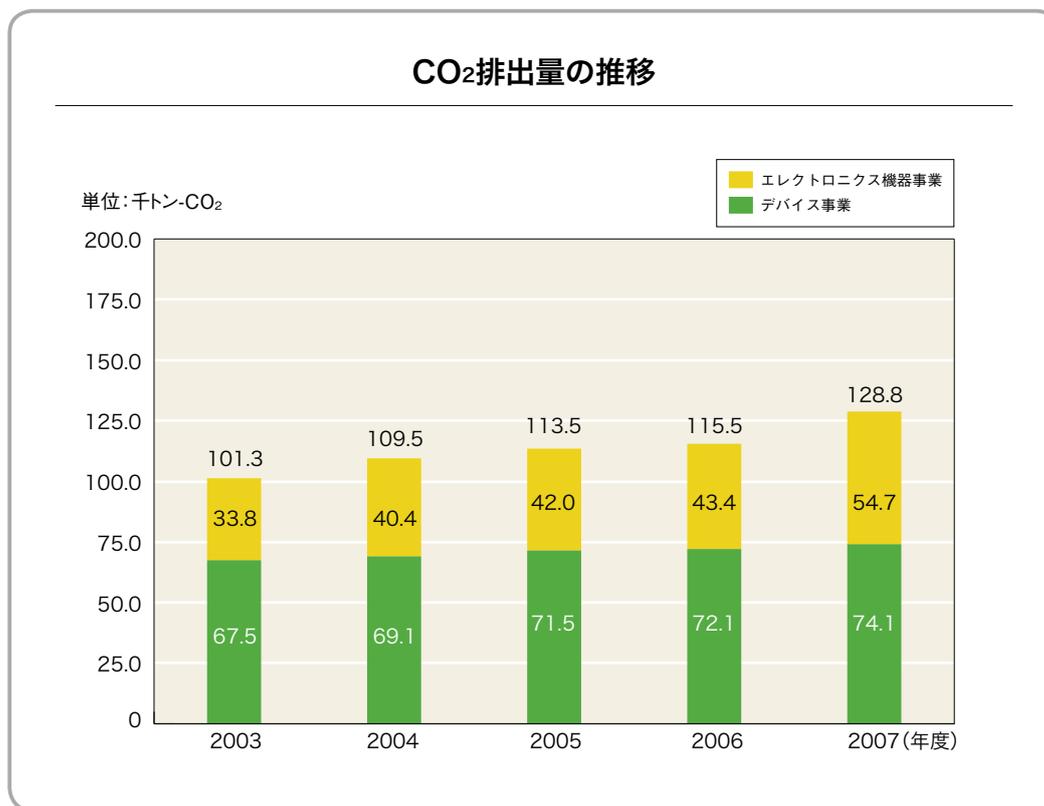


CO₂排出量と生産高原単位の推移(海外生産拠点)



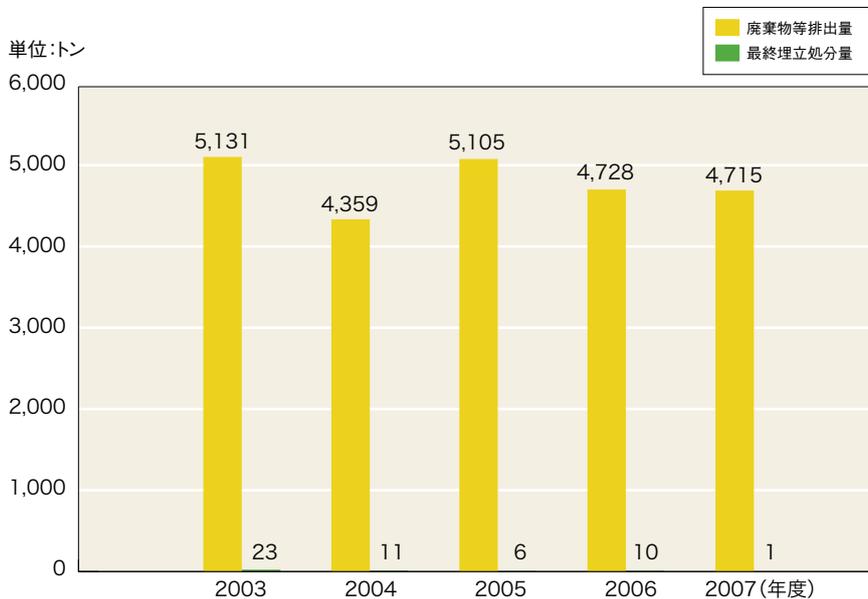
※台湾カシオは業務形態の変更に伴い、2007年度からオフィス拠点に移しました。

>> P45「生産拠点、オフィスでの取り組み」

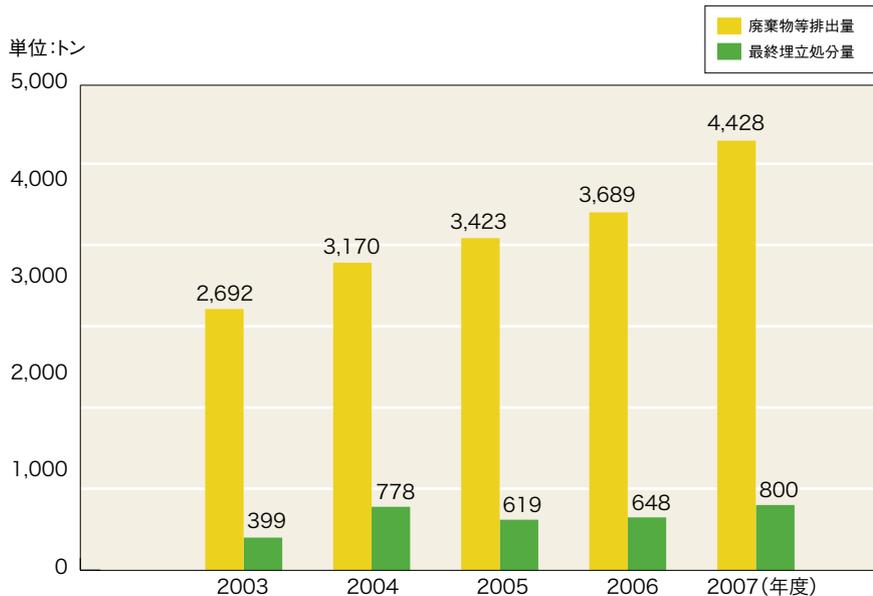


>> P45「生産拠点、オフィスでの取り組み」

事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移
(デバイス事業)

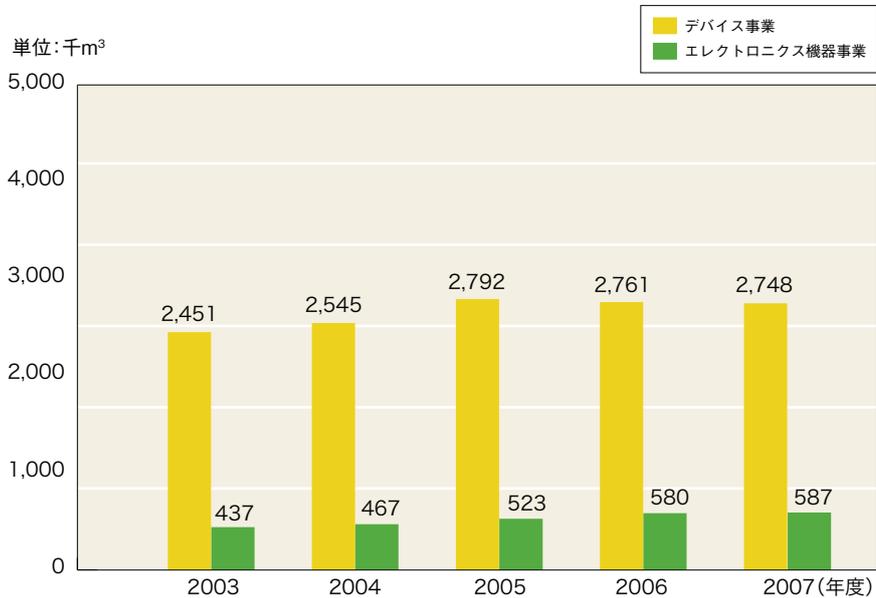


事業活動別 廃棄物等排出量・最終埋立処分量の推移
(エレクトロニクス機器事業)



>> P47 「廃棄物削減」

水資源利用量の推移



2007年度 PRTR対象化学物質の取扱量と排出量・移動量(国内生産拠点)

(単位：トン)

第一種指定化学物質名	物質番号	1トン以上の取扱事業所	取扱量	排出量		除去処理量	移動量 廃棄量	消費量	リサイクル量
				大気	公共用水域				
2-アミノエタノール	16	2	42.26	0.08		15.29	3.85		23.05
銅水溶性塩	207	1	47.96	0.01	0.12				47.83
チオ尿素	181	1	32.11				32.10		
キシレン	63	1	26.17	11.56			14.61		
フッ化水素およびその水溶性塩※1	283	1	80.89	0.04	2.29		73.85		4.71
エチルベンゼン	40	1	4.52	1.98			2.53		
有機スズ化合物	176	1	5.84				5.84		
エチレングリコール	43	2	7.45				7.45		
酢酸 2 エトキシエチル	101	1	1.27	0.13			1.14		
オクチルフェニルエーテル	308	1	3.90				3.90		
ニッケル化合物※2	232	2	2.88				2.88		
鉛およびその他の化合物	230		0.23					0.15	0.08
トルエン	227		0.05	0.05					
合計			255.53	13.85	2.41	15.29	148.15	0.15	75.66

(注) 空欄はゼロを示します

※1 フッ化水素およびその水溶性塩は2006年度と比較してデバイスの薄型化のため取扱量は増加しましたが、排出量は減少しています。

※2 ニッケル化合物は特定第一種指定化学物質のため、取扱量が0.5トン以上であることから届け出をしています。

●表組みの中で項目の合計が合わない場合がありますが、端数処理の関係です。

2007年度 VOCの使用量と大気排出量

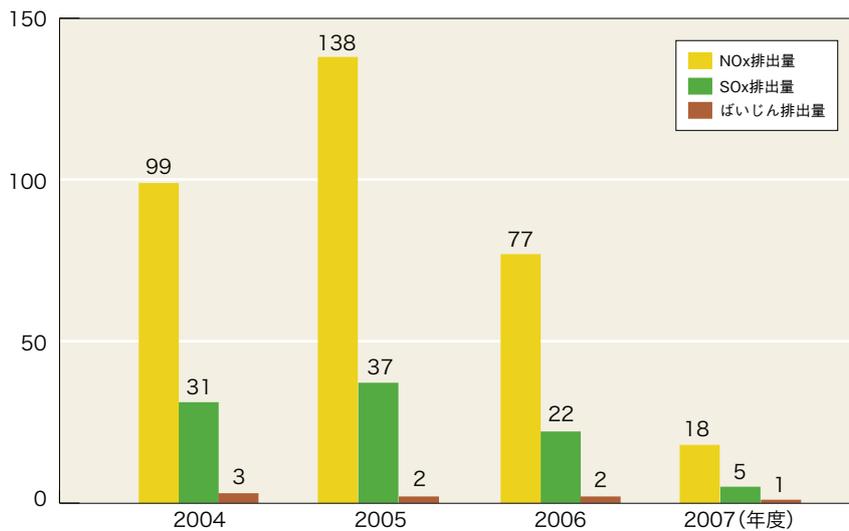
(単位：トン)

VOCの種類	取扱量	大気への排出量	備考
イソプロピルアルコール	150.1	13.4	
トルエン	0.1	0.1	※
アセトン	16.2	10.1	
酢酸ブチル	11.9	3.1	
メタノール	1.5	1.5	
キシレン	26.4	11.0	※
エタノール	20.4	2.3	
エチルベンゼン	4.5	2.0	※
1-メトキシ-2-プロパノール	13.2	0.0	
合計	244.3	43.4	

※は PRTR 法対象化学物質

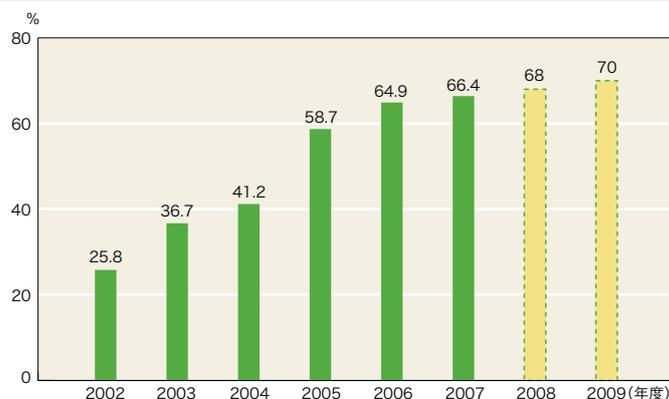
NOx、SOx、ばいじんの大気排出量の推移

単位：トン



>> P48「VOCの削減」「NOx、SOx、ばいじんの削減」

グリーン購入比率の推移(件数ベース)



※1 CATS e-P システム導入拠点

(2007.3.31 現在：2社)

- カシオ計算機：本社、羽村技術センター、八王子技術センター、東日本ハブセンター（千代田／仙台／埼玉／横浜／千葉／特販営業）、西日本ハブセンター（名古屋／大阪／広島／京都）
- カシオ日立モバイルコミュニケーションズ

(2008.3.31 現在：プラス 13社、計 15社)

- | | |
|---------------------|-----------|
| ● カシオ情報サービス | ● カシオ電子工業 |
| ● カシオコミュニケーションプレインズ | ● カシオソフト |
| ● カシオサポートシステム | ● カシオテクノ |
| ● カシオビジネスサービス | ● 山形カシオ |
| ● カシオフィールドマーケティング | ● 甲府カシオ |
| ● カシオ情報機器 | ● 高知カシオ |
| ● カシオマーケティング | |

(2008年度予定：プラス 5社、計 20社)

- 新日本カシオ情報技研
- セイヨー電子
- カシオアイネットソリューション
- カシオエンターテイメント
- CXD ネクスト

※2 グリーン購入比率 (%) :

$$\frac{\text{環境マークのついた文具、事務用品、OA 機器類 (ソフトを除く) の購入件数}}{\text{カタログに掲載されている文具、事務用品、OA 機器類 (ソフトを除く) の購入件数}} \times 100$$

>> P48「グリーン購入の推進」

製品環境アセスメント評価項目

グリーン商品認定基準

コンシューマ商品

環境設計度評価 配点
100点満点で90点以上が必要

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 材料表示 | 10. 再生資源 |
| 2. リサイクル設計 | 11. グリーン梱包 |
| 3. 分解性向上 | 12. グリーン調達部品 |
| 4. 電池の安全性 | 13. 温暖化防止 |
| 5. 電池の取り外し | |
| 6. 電池リサイクル表示 | |
| 7. 材料・識別表示 | |
| 8. 環境情報開示 | |
| 9. 単一分別・分解 | |



商品度評価 9項目中、
2項目以上の適合が必要

1. 安全性・資源の再利用
2. 消費電力の削減・電池の長寿命
3. 部品点数の削減
4. 省資源の有効利用
5. RoHS 指令規制物質廃止
6. 部品の特定有害化学物質禁止
7. ユニバーサルデザインの採用
8. LCA 環境影響評価
9. バイオプラスチックの採用

システム商品

環境設計度評価 配点
900点満点で810点以上が必要

1. 省エネルギー
2. リデュース
3. リユース
4. リサイクル
5. 処理容易性
6. 環境保全性
7. 包装資材
8. 情報提供
9. 取扱説明書、カタログ等



商品度評価 コンピュータ/プリンタ3項目以上
ハンディターミナル/電子レジスタ2項目以上適合

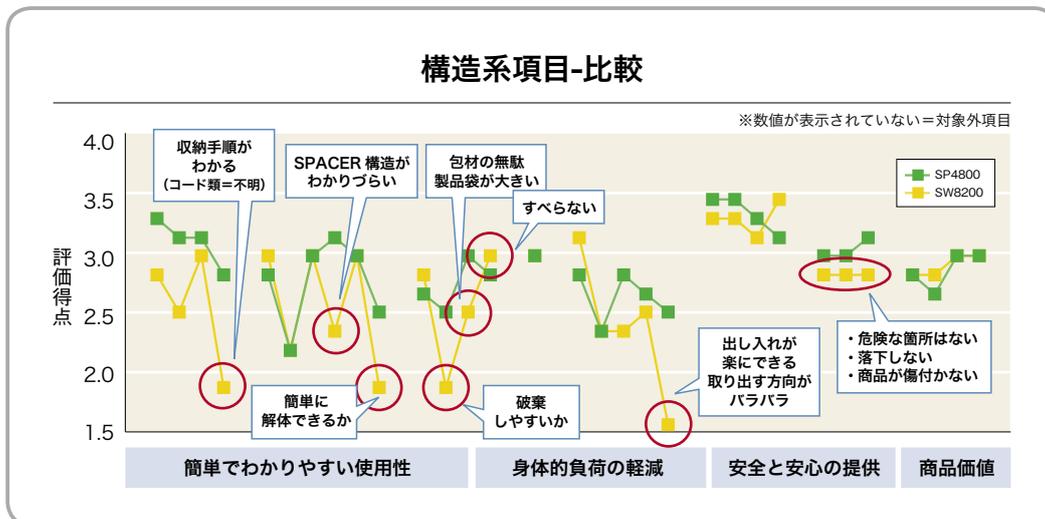
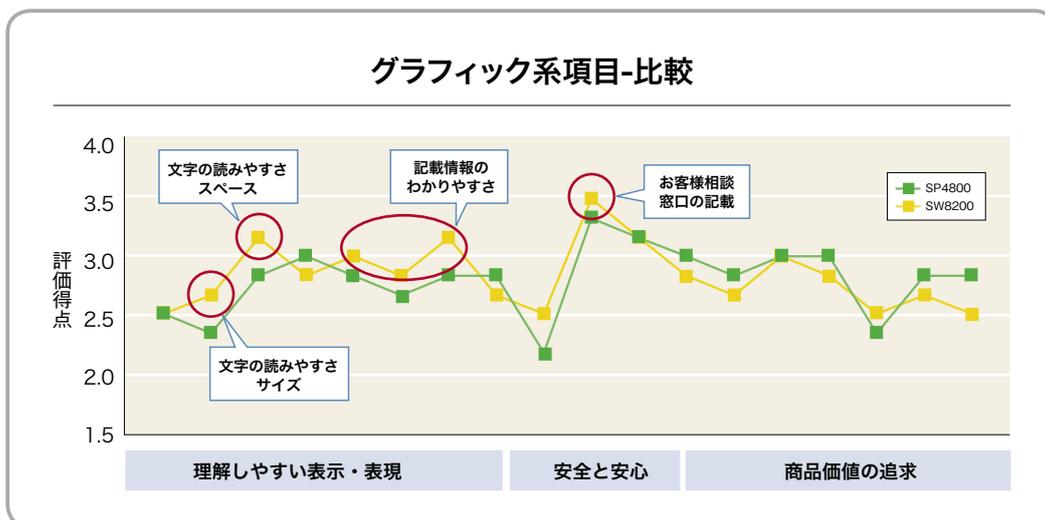
1. トップランナー省資源
2. トップランナー省エネルギー
3. トップランナー環境負荷
4. 省資源の有効利用
5. RoHS 指令準拠
6. 特定有害物質の廃止
7. 省エネラベル取得・DB への登録
8. ユニバーサルデザインを採用した
9. LCA 環境影響評価を行った
10. バイオプラスチックの使用

カシオ製品にかかわる主な環境関連法規制

(カッコ内は審議中)

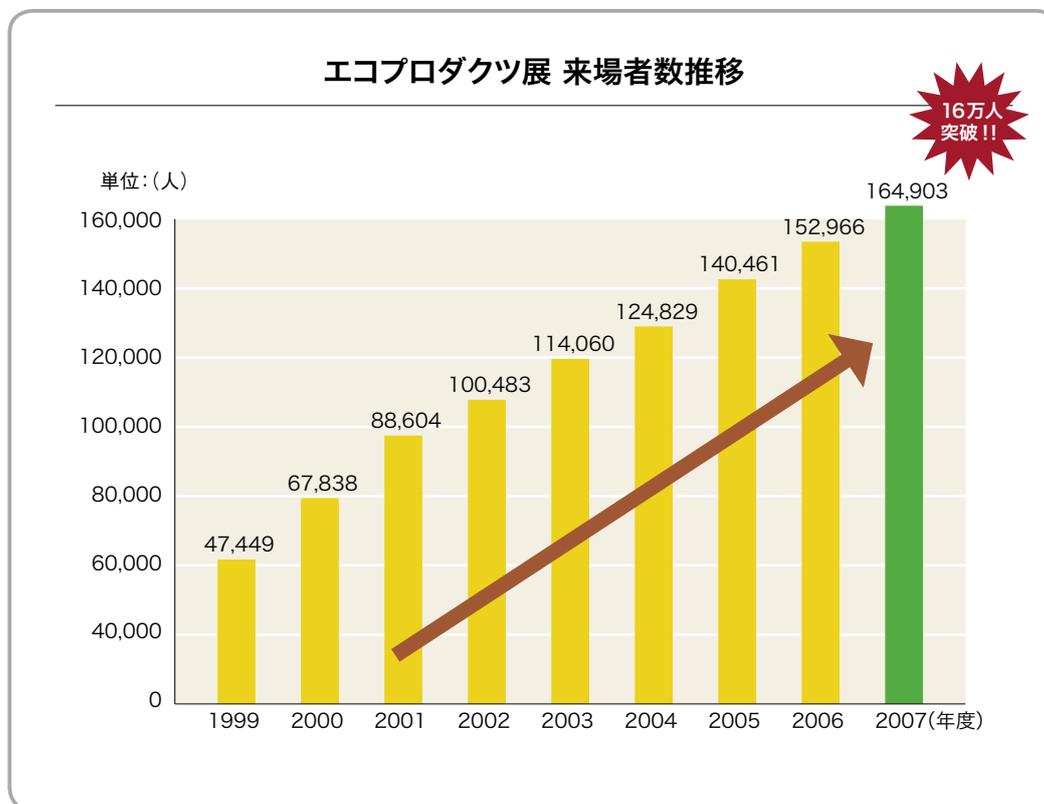
	製造			包装材		電池	
	回収・リサイクル	有害物質	省エネ	回収・リサイクル	有害物質	回収・リサイクル	有害物質
EU	WEEE	RoHS、REACH、76/769/EEC	EuP	包装廃棄物指令	包装廃棄物指令	電池指令	電池指令
米国各州		プロポジション 65、水銀規制	外部電源効率規制		各州包装材重金属規制	CA 州充電電池リサイクル法	
中国	(中国 WEEE)	中国 RoHS		中国 RoHS			乾電池水銀規制、中国 RoHS
韓国			エネルギー利用合理化法	韓国リサイクル法		韓国リサイクル法	韓国電池規制
台湾							乾電池水銀規制
アルゼンチン		(アルゼンチン RoHS)					アルゼンチン電池規制
オーストラリア		(オーストラリア RoHS)	外部電源効率規制				
タイ		(タイ RoHS)					
日本	リサイクル法	J-Moss	省エネ法	容器包装リサイクル法		リサイクル法	

2007年度より、社内の包装に携わる専門家において、ユニバーサル包装の評価項目を明確にし、評価基準を設定しました。その基準をもとに、ユニバーサル対応を意識した包装改善に取り組み、評価を実施しました。今後も他商品への展開を図り、すべてのお客様の視点に立った包装の在り方を追求していきます。



>> P51「製品包装材への取り組み」

エコプロダクツ展は、2007年には来場者数16万人を突破、世界有数規模の環境展示会となりました。カシオは第1回から出展し、環境への取り組みをご紹介しています。



【ご参考】 CEATEC (日本)：約 20 万人、CES (米国)：約 14 万人、CeBIT (ドイツ)：約 40 万人
出展社数実績 632 社 (昨年 572 社)

>> P52「エコプロダクツ2007に出展」(2007年12月 東京ビッグサイト)